

研究課題	日中における劉禹錫の受容		
氏名	石村貴博	所属 人文社会科学系 日本語日本文学研究講座	職名 講師
APRIN e-ラーニングプログラムの受講		<input checked="" type="checkbox"/> ←受講済の場合はチェックをすること	
<p>【研究成果の概要】（文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度）</p> <p>中唐の詩人劉禹錫（772 - 842）の日中における評価について調査・考察した。</p> <p>劉禹錫は「天論」における合理的な思考が評価され、白居易との唱和詩『劉白唱和集』が日本に伝わり、民歌「竹枝詞」の文学化は後世に大きな影響を与えた。このように、劉禹錫は中国思想・中国文学・日本への受容など多方面において重要な人物であるものの、主要な詩人には備わる中華書局の古典文学研究資料彙編に劉禹錫巻はなく、その受容についても卞孝萱・卞敏『劉禹錫評伝』（南京大学出版社）に言及されるのみで、劉禹錫の受容史研究を発展させる必要性があった。その問題意識に立って筆者は「劉禹錫「有所嗟」二首考—『源氏物語』葵巻の引用を契機として—」（『学芸国語国文学』57号、2025年3月）を発表し、『源氏物語』における劉禹錫の詩の受容についてまとめた。この中で「有所嗟」二首は劉禹錫と白居易の唱和詩集『劉白唱和集』に収められていることと、『劉白唱和集』は『日本国見在書目録』によって日本への伝来が確認できるため、劉禹錫の詩が平安時代においては『劉白唱和集』によって受容されたと推測した。</p> <p>その成果を踏まえて、『千載佳句』『和漢朗詠集』などの摘句集や、類書における劉禹錫の詩文の採録状況、『唐詩選』『唐詩三百首』など総集における劉禹錫の詩の所収状況、詩話類や『太平広記』における劉禹錫の話柄について調査することで、日中における劉禹錫の受容史をまとめることを目指した。</p> <p>まず、大江維時撰『千載佳句』（963年以前の成立）に引かれた劉禹錫の詩句について調査した。『千載佳句』における劉禹錫の詩句は19首あり、白居易（514首）、元稹（64首）、許渾（33首）、章孝評（31首）について五番目に多い。劉禹錫に対する評価の表れと考える。なお、劉禹錫の詩句19首分のうち、『劉白唱和集』所収と推測される作品は少なかった。6首は劉禹錫の作品集に見えず、中国古典のデータベースで調査したものの、出处は不明であった。</p> <p>『千載佳句』に収められた劉禹錫の詩句のうち、『劉禹錫集』に掲載されているものについては、出典に当たり、詩全体の訳注を作成した。なお、『和漢朗詠集』所引の劉禹錫の詩は4首あり、すべて『千載佳句』所引のものであった。</p> <p>あわせて、『唐詩選』『唐詩三百首』『古文真宝』『唐宋文挙要』『唐宋文醇』『唐音』などの総集における劉禹錫の詩文の所収状況を調査した。高麗（918-1391）前期に編纂された『十抄詩』（七言律詩300首を収める総集）で、劉禹錫の詩10首が巻頭に置かれており、朝鮮においても劉禹錫の詩が評価されていたことを確認した。</p> <p>今回の調査を踏まえて順次研究成果を発表してゆく予定である。</p>			
<p>【研究成果発表方法】</p> <p>論文 石村貴博「李程と劉禹錫」（令和8年度『東京学芸大学紀要』投稿予定）</p> <p>論文 石村貴博「妓女と劉禹錫」（令和9年度『中唐文学会報』投稿予定）</p>			

※発表論文名（口頭発表を含む）、氏名、学会誌等名（投稿中・投稿予定・執筆中）を記入すること。

※本経費を用いて、報告書（冊子等）を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。

なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。